

「郷土を愛し、未来を創る人づくり」のための  
自己点検・評価報告書

令和6年3月

御前崎市教育委員会

## 〈参考〉地方教育行政の組織及び運営に関する法律

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

**第二十六条** 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。))を含む。)の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

(幼保連携型認定こども園に関する意見聴取)

**第二十七条** 地方公共団体の長は、当該地方公共団体が設置する幼保連携型認定こども園に関する事務のうち、幼保連携型認定こども園における教育課程に関する基本的事項の策定その他の当該地方公共団体の教育委員会の権限に属する事務と密接な関連を有するものとして当該地方公共団体の規則で定めるものの実施に当たっては、当該教育委員会の意見を聴かなければならない。

(教育委員会の意見聴取)

**第二十九条** 地方公共団体の長は、歳入歳出予算のうち教育に関する事務に係る部分その他特に教育に関する事務について定める議会の議決を経るべき事件の議案を作成する場合には、教育委員会の意見をきかなければならない。



## I はじめに

御前崎市教育委員会では、第2次御前崎市総合計画の教育文化分野の基本目標「郷土を愛し 未来を創る 人づくり」に基づき、御前崎市教育大綱及び御前崎市教育振興基本計画の基本方針である「園・学校、家庭、地域、産業界、各団体、行政等がスクラムを組み、協働することによって、1 思いやりがあって互いを認め合うことができ、たくましくしなやかな子どもが育つ 2 生涯にわたってともに学び続け、互いに高め合う市民が育つ」ための教育行政を展開しています。そして、その年度の主要施策及び取組について、当市の教育を説明する『スクラム御前崎』の中で示しています。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号。）第26条では、教育行政の効果的推進及び市民への説明責任を果たすために、「教育委員会は毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行う」ことを義務付けています。

このことを受けて、教育委員会では令和5年度『スクラム御前崎』で示した主要施策及び取組の自己点検及び評価を行い、その客観性を確保するため、市内の学識経験者4名から意見をいただき、第三者的立場から常葉大学教育学部 堀井啓幸教授に外部評価をお願いし、検証したものを報告書として取りまとめました。

今回の点検及び評価を令和6年度の施策に活かし、基本目標の達成のためにそれぞれの取組を推進してまいります。

令和6年3月

御前崎市教育委員会  
教育長 吉村紳治郎

## Ⅱ 点検・評価について

### 1. 趣 旨

御前崎市教育委員会は、地方教育行政法第 26 条の規定に基づき、毎年、その権限に属する主要な施策や事務事業の取組状況について、政策効果を把握し、その必要性・効率性等の観点から、自ら点検及び評価を行い、課題や取組の方向性を明らかにすることにより、効果的な教育行政の一層の推進を図るとともに、この点検及び評価の結果に関する報告書を作成し、市議会に提出するとともに一般に公表することにより、市民に対する説明責任を果たし、信頼される教育行政を推進しようとするものです。

### 2. 点検・評価の対象

点検及び評価は、令和 5 年度「スクラム御前崎」に沿って、本年度における教育委員会の主要な施策・事業を対象として実施いたしました。このため、スクラム御前崎 P. 1 の「重点取組」として掲げた 16 の施策とそれに伴う事業について評価を行っています。

### 3. 点検・評価の方法

点検及び評価の実施にあたっては、令和 5 年度の事業について、その進捗状況を総括するとともに、内部評価を行うことにより課題や今後の取組みの方向性を明らかにし、その結果を外部評価として、元中学校長 杉浦 尚志 氏、元教育委員 増田 美恵子 氏、元園長 渡辺 和子 氏、民間企業代表 植田 浩行 氏の御意見や、常葉大学教育学部教授 堀井 啓幸 氏に総合評価を頂くことにより、教育に関する学識経験者の知見活用に努めました。

### 4. 点検・評価の表し方

点検及び評価については、本年度執行予定の事業を、本年度 3 月末までにどれだけ実行できたかを「執行度」として 0～100% で表しました。また、その事業自体の「妥当性」「効果性」「効率性」をそれぞれ、1「非常に低い」、2「低い」、3「どちらともいえない」、4「高い」、5「非常に高い」の 5 段階で表しました。「妥当性」とは、「第 2 次御前崎市総合計画 2016～2025」に掲げた目標達成のために、その事業自体がどれほど妥当かを評価しています。「効果性」とは、実際に事業を進めた結果、得た効果について評価しています。「効率性」とは、コスト面・人員面において費用対効果がどれほどかを評価しています。

実施できなかった事業については、「－」で表しています。

### Ⅲ 重点取組

今回教育委員会の自己点検・評価についての報告書をまとめるにあたり、令和5年度重点取組として掲げた目標に対する評価をまとめました。本年度執行予定の事業を、本年度3月末までにどれだけ遂行できたかを「執行度」として0～100%で表しています。

◎点検・評価について ○妥当性 5・・・非常に高い 〃    4・・・高い 〃    3・・・どちらともいえない 〃    2・・・低い 〃    1・・・非常に低い ○効果性・効率性も上記に準じて評価しています。	◎今後の方向について ①継続 ②完了 ③拡大 ④縮小 ⑤転換 ⑥中止
---	--

#### 1. 生活習慣（学習習慣）の定着

市スクラム・スクール運営協議会を2回開催し、子どもたちの生活習慣の課題として「早寝早起き朝ごはん」などの基本的な生活習慣やそのための「自己管理能力の育成」について現状と課題を共有した。市青少年健全育成会議でも掲げる目標を同じくし、「早寝早起き朝ごはん」「ゲーム障害、ネット依存」について、各地域や家庭へ意識啓発を行った。本年度のスクラム御前崎の集いでは、子どもたちを交えてワークショップを初開催し、子どもたちの考えを感じる試みを行った。結果、「早起き」「朝ごはん」ができる児童生徒の割合は、全国平均より高い状況である。

事業	執行度	事業の妥当性	効果性	効率性(コスト)	効率性(人員)	今後の方向
スクラム・スクール運営協議会	100	5	5	5	5	継続
「スクラム御前崎の集い」の開催	100	5	5	5	4	継続
市青少年健全育成会議・地区推進委員会の開催	90	5	5	4	4	継続
家庭教育支援の推進	100	5	5	5	5	継続
平均	97.5	5	5	4.8	4.5	

#### 2. 市の特色を活かした教育や体験による愛郷心の育成

「御前崎クエスト」では、プログラムを1つ新設した。キッズからユースまで、クエスト内での学びのサイクルができています。プログラムでは、自然体験、地域資源を生かした活動を通じ、地域愛の醸成ができた。各小中学校では、理科や社会科の授業等を行う際に、各発電のしくみや社会とエネルギーの関係などについて、中部電力職員をゲストティーチャーに迎え、出前講座を実施した。

「マリンスポーツフェスタ」は、数年ぶりに制限が無い中で牧之原市と共催で事業を実施し、過去最高の586人が来場してくれた。

事業	執行度	事業の妥当性	効果性	効率性(コスト)	効率性(人員)	今後の方向
青少年体験事業「御前崎クエスト」	100	5	5	5	5	継続
エネルギー教育の推進	100	4	4	5	5	継続
地域教材(社会科副読本)の改訂(R4改訂実施済・次回R8改訂予定)※	—	—	—	—	—	継続
マリンスポーツフェスタの開催	100	5	4	4	4	継続
平均	100	4.7	4.3	4.7	4.7	

※地域教材(社会科副読本)の改訂は、4年に1度行われており、令和4年度に実施している。したがって、本年度は改定を実施しておらず評価は行っていない。次回改訂は令和8年度に予定している。

### 3. 読書・読み聞かせの推進

「第2次御前崎市子ども読書活動推進計画」に沿って読み聞かせや巡回貸出などの取組を行い、子どもの成長に合わせた読書活動の支援を行うことができた。来年度以降も園や学校、地域との連携を深め、読書環境の整備を進めていく。園・小中学校では、それぞれの発達や興味に合わせた読書環境の整備を行った。小中学校では4人の図書館司書が図書担当と協力して読書活動の推進を行った。

事業	執行度	事業の 妥当性	効果性	効率性 (コスト)	効率性 (人員)	今後の 方向
学校における読書活動の推進	100	5	5	5	5	継続
市立図書館と学校図書館との連携	100	5	5	5	5	継続
園の読書環境の整備	100	5	5	5	5	継続
市立図書館の充実した資料収集	100	5	4	4	4	継続
読み聞かせなどのボランティアとの協働	100	5	4	5	5	継続
子どものための読書環境の整備	100	5	5	4	4	継続
平均	100	5	4.7	4.7	4.7	

### 4. 乳幼児の保育・教育の充実と円滑な園小接続

アプローチ・スタートブックを活用し、各小学校の入学説明会で説明し、園から就学に向けての支援を丁寧に行った。幼児研修、実技研修、支援員研修それぞれに講師を招聘し、立場に応じた各研修を実施したことで保育実践に役立った。

また、上智大学の奈須教授を招聘してのスクラム研修会を通して、市の乳幼児教育が目指していることを小中学校とも共有し、途切れない教育の実現に繋がっている。

事業	執行度	事業の 妥当性	効果性	効率性 (コスト)	効率性 (人員)	今後の 方向
スクラム研究会	100	5	5	5	5	継続
主体的な遊びや体験を充実させる環境作り	100	5	5	5	4	継続
教諭・保育士対象各種研修会	100	5	4	4	5	継続
平均	100	5	4.7	4.7	4.7	

## 5. 家庭教育支援の充実

あそび塾、だれでも食堂「もぐもぐ」、家庭教育学級に加え、おはな助産院とhappymomに委託し、家庭教育支援事業を展開した。新たな場を提供することで、新しい参加者もあった。今後もこども未来課など関係課と連携して取り組む。また、市内各園の保護者を対象に浜松学院大学今井昌彦教授の講演を聴く機会を設け、「ゲーム障害・ネット依存」の問題について幼少期における家庭教育支援の充実を図った。

事業	執行度	事業の妥当性	効果性	効率性(コスト)	効率性(人員)	今後の方向
アプローチ・スタートアップブックの活用	100	5	5	5	5	継続
家庭教育支援の推進(再)	100	5	5	5	5	継続
家庭教育支援員の配置	100	5	5	5	4	継続
家庭教育学級への支援	100	5	5	5	4	継続
療育指導員による療育の推進と充実	100	5	5	5	4	継続
平均	100	5	5	5	4.4	

## 6. 互いの人権を尊重し、思いやりを大切にする教育への取組

学校に足の向かない児童生徒が、校内外の適応指導教室での生活で、自主的に学習に取り組んだり、対人関係を築いたりすることができている。

また、いじめ問題対策連絡協議会では、各校のいじめの実情や対応について情報共有することを通して、関係機関との連携を強化した。

事業	執行度	事業の妥当性	効果性	効率性(コスト)	効率性(人員)	今後の方向
各校での指導	100	5	5	5	5	継続
しおかぜ先生の配置	100	5	5	5	4	継続
適応指導教室「サンルーム」	100	5	5	5	5	継続
いじめ問題対策連絡協議会	100	5	5	5	5	継続
平均	100	5	5	5	4.8	

## 7. 探究的な学び・協働的な学びの深化

スクラムゼミナールでは、上智大学奈須教授を招聘し、市内すべての小中学校で研修を行い、よりよい授業を目指す中で、現状の授業を見直し、個別最適な学びへと授業観をシフトする機会となった。

また、授業改善推進委員会やICT推進委員会では、市授業改善テーマの実現に向け、ICTの効果的な活用を含めた研修を進めた。

事業	執行度	事業の妥当性	効果性	効率性(コスト)	効率性(人員)	今後の方向
市独自の学力調査	100	5	5	5	5	継続
スクラムゼミナール	100	5	5	5	5	継続
教職員対象各研修会	100	5	5	5	5	継続
外国語指導助手(ALT)及び英語活動指導員の配置	100	5	5	5	5	継続
学習支援員等の配置	100	5	5	5	5	継続
平均	100	5	5	5	5	

## 8. ICT等の活用による新しい学びの展開

国のGIGAスクール構想3年目となり、端末の活用やクラウドを活用した学びが充実してきた。各校へのICT支援員の配置や授業支援ソフトウェアの活用により、学びの幅も大きく広がっている。活用にあたり、インターネットリテラシーや情報モラルを身につけることが、これまで以上に重要である。浜松学院大学今井昌彦教授を招聘して市内各園で講演会を行ったり、ネットパトロールを依頼している業者による講演会を各園・各校で行ったりすることで、児童生徒および家庭での情報モラル等の意識が高まった。

事業	執行度	事業の妥当性	効果性	効率性(コスト)	効率性(人員)	今後の方向
ICT支援員の配置	100	5	5	4	5	継続
学校のICT環境の向上	100	5	5	4	4	継続
デジタル教材の活用	100	5	5	5	5	継続
情報モラル学習の推進	100	5	5	5	5	継続
平均	100	5	5	4.5	4.8	

## 9. 健康教育を通じた体力の向上と健やかな体づくり

全国体力運動能力等調査を実施した。市内の子どもたちの運動能力・運動習慣を客観的に分析する良い機会となった。本年度の全国平均値と比較し、小学生は同等の結果となった。中学生はやや低い結果となった。

事業	執行度	事業の妥当性	効果性	効率性(コスト)	効率性(人員)	今後の方向
全国体力運動能力・運動習慣等調査の分析と活用をもとにした各校での指導	100	5	5	5	5	継続
部活動の活発化	100	5	5	5	5	継続
健康に関する意識の向上	100	5	5	5	5	継続
食育指導の推進	100	5	5	5	5	継続
平均	100	5	5	5	5	

## 10. 特別な支援を必要とする児童生徒への教育の充実

個別に支援を要する子どもが年々増加傾向にあり、対応が複雑化してきている中、療育指導教室や園訪問等を通じて、一人一人に応じた適切な支援を行っている。

また、就学支援委員会では、特別な支援を必要とする子どもに対し、進路を見据えて適切な学びの場はどこかを審議し、丁寧な就学支援を進めた。

事業	執行度	事業の妥当性	効果性	効率性(コスト)	効率性(人員)	今後の方向
学習支援員等の配置	100	5	5	5	5	継続
個性伸長支援員の配置	100	5	5	5	5	継続
就学支援委員会	100	5	5	5	5	継続
個性伸長支援教育専門家チーム会議	100	5	5	5	5	継続
療育指導員による療育の推進と充実(再)	100	5	5	5	4	継続
平均	100	5	5	5	4.8	

## 11. 部活動の地域移行の検討

国の提案する中学校部活動の地域移行については、少子化が進む本市にとっても、重要課題である。国の求める令和5年度から令和7年度の改革推進期間内に、本市の方向性を決定すべく、検討会による方針作成を進めている。

また、近隣市と定期的に協議会を実施したり、関係機関との連携強化を進めた。

事業	執行度	事業の妥当性	効果性	効率性(コスト)	効率性(人員)	今後の方向
部活動検討委員会	100	5	3	5	5	継続
平均	100	5	3	5	5	

※部活動地域移行は、現在まだ検討段階のため、本年度は、効果性についてはどちらともいえないという意味で、点検と評価を行った。

## 12. 学校の再編についての検討

市学校再編計画案について慎重に検討し、どのような方法で市民に提示していくか、その方法について考え、丁寧な説明をしながら進めていきたい。

事業	執行度	事業の妥当性	効果性	効率性(コスト)	効率性(人員)	今後の方向
学校再編検討委員会	100	5	4	5	5	継続
平均	100	5	4	5	5	

## 13. ライフステージごとの学びの提供

ライフステージごとの学びの姿と場を示す「学びの航海図」を作成し、生涯学習ガイドブックも活用して市民が学び続けることができる仕組みづくりができた。講座数も増え受講者も増加した。

シニアスクールでは、全8講座を実施し、受講者の多くが満足している。本年度は、小中学生との交流も実施し地域とともにある学校づくりの推進に繋がった。

事業	執行度	事業の妥当性	効果性	効率性(コスト)	効率性(人員)	今後の方向
「おまえざき学びの航海図」の作成・活用と生涯学習講座等の充実	100	5	5	5	4	継続
「学びの循環」の仕組みづくりの推進	100	5	5	4	4	継続
社会教育学級活動への支援	100	5	5	5	4	継続
シニアスクールの開催	100	5	5	5	5	継続
平均	100	5	5	4.8	4.3	

## 14. 生きがいや潤いをもたらす文化・スポーツの振興

文化協会と連携して様々な団体や個人の文化活動を披露する文化祭を開催した。振興公社が行っている各種文化講座を通して、様々な文化芸術に親しむ機会を提供できた。図書館では、市内小中学校・高等学校の児童・生徒や市民の作品展示を行ったほか、講演会や出張劇場を行うことで、市民が身近に文化・芸術に触れる場を提供することができた。来年度以降も展示やイベントを通じて市民の文化活動の振興に貢献していく。

スポーツ推進委員と協力して開催したスポーツ教室・大会や振興公社が行っている様々な運動教室を通じて、誰でも楽しみながら気軽にスポーツをする環境を提供することができた。

事業	執行度	事業の妥当性	効果性	効率性(コスト)	効率性(人員)	今後の方向
市文化祭の開催	100	5	5	4	4	継続
図書館での展示や講演会などの開催	100	4	4	4	4	継続
御前崎市振興公社との連携によるスポーツ及び文化の振興	95	4	4	4	4	継続
軽スポーツ教室・大会の開催	80	4	4	4	3	継続
文化協会・スポーツ協会との連携	90	4	4	3	3	継続
平均	93	4.2	4.2	3.8	3.6	

## 15. 新型コロナウイルス感染症への対応

学校においては、新しい生活様式を日常化し、感染予防の徹底に努めた。感染者が出た場合は、迅速かつ適切な対応を行い、感染拡大防止に努めた。社会教育事業においては、感染症対策に係る注意喚起を図るとともに、状況に応じ日程変更など感染拡大防止に努めた。

事業	執行度	事業の妥当性	効果性	効率性(コスト)	効率性(人員)	今後の方向
感染拡大防止への日常的な取組	100	5	5	5	5	継続
感染者への偏見・差別の防止PR	100	5	5	5	5	継続
平均	100	5	5	5	5	

## 16. 教職員の働き方改革の推進

共同学校事務室と連携し、業務を一本化または精選することで、教職員の負担軽減につながっている。

また、業務改善『夢』コーディネーターを各校に配置し(県教委事業)、県内小中学校の取り組みを共有し、自校の働き方改革に反映している。

事業	執行度	事業の妥当性	効果性	効率性(コスト)	効率性(人員)	今後の方向
県教委「学校の働き方改革推進プロジェクト」との連携	90	4	4	4	4	継続
各園・学校への調査	100	5	4	5	5	継続
各園・学校での取組への支援	100	5	4	4	4	継続
平均	96.7	4.7	4	4.3	4.3	

IV 御前崎市教育委員会の自己点検及び評価

重点取組の点検・評価した施策についての具体的な事業を自己点検評価シートにまとめました。  
本年度執行予定の事業を、本年度3月末までにどれだけ遂行できたかを「執行度」として0～100%で表しています。

◎点検・評価について ○妥当性 5・・・非常に高い " 4・・・高い " 3・・・どちらともいえない " 2・・・低い " 1・・・非常に低い ○効果性・効率性も上記に準じて評価しています。	◎今後の方向について ①継続 ②完了 ③拡大 ④縮小 ⑤転換 ⑥中止
---	--

5-1-1 スクラムによる市全体の教育力の向上

事業	重点取組	執行度	点 検 ・ ( 評 価 )		今後の方向								
総合教育会議・移動教育委員会の実施 (教育総務課)	—	100%	<table border="1"> <tr><td>事業の妥当性</td><td>5</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>5</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>5</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>5</td></tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	5	効率性(コスト)	5	効率性(人員)	5	総合教育会議を2回開催した。第1回は、令和5年度全国学力学習状況調査、標準学力調査の結果について、結果を分析・考察した報告、前年調査との比較による課題等を共有しながら、市長が教育に抱く考えを確認するとともに、市長と教育委員との意見交換ができた。第2回は、来年度の具体的教育施策について協議した。 移動教育委員会を1回開催した。部活動地域移行について検討委員と教育委員が話し合い、現在の状況と展望について確認した。	①継続 教育、文化の振興に関する重要施策について引き続き検討を重ねる必要があることから、年2回の総合教育会議は継続する。 また、各分野の現場の意見を聞く機会として移動教育委員会も継続して開催していく。
事業の妥当性	5												
効果性	5												
効率性(コスト)	5												
効率性(人員)	5												
スクラム・スクール運営協議会の実施 (学校教育課)	1	100%	<table border="1"> <tr><td>事業の妥当性</td><td>5</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>5</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>5</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>5</td></tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	5	効率性(コスト)	5	効率性(人員)	5	御前崎市スクラム・スクール運営協議会を2回開催し、子どもたちの生活習慣の課題として「早寝早起き朝ご飯」などの基本的な生活習慣やそのための「自己管理能力の育成」について現状と課題を共有した。また、学校スクラム・スクール運営協議会を各校で2～3回開催し、各校の現状と課題について、学校・家庭・地域が協議した。さらに、各園において浜松学院大学 今井昌彦教授の講演会を開催し、親子で「ゲーム障害・ネット依存」の問題について考える場を設けた。 本市の児童生徒の1日2時間以上メディアにかかわる割合は、全国平均より高い状況である。 「早起き」「朝ごはん」ができる児童生徒の割合は全国平均よりも高い状況である。	①継続 全国学力・学習状況調査や標準学力調査の質問紙調査結果において、ネットの長時間利用率が、全国平均に比べて小中学校ともに10ポイント程度多い状況が続いているため、市の一体的な取組として、スクラム・スクール運営協議会の活動を継続していくとともに、講演会へ市民の参加も働きかけていく。学校・保護者・地域が一体となって子供たちの健全な育成を目指すための手立てを講じていく。
事業の妥当性	5												
効果性	5												
効率性(コスト)	5												
効率性(人員)	5												
シニアスクールの実施 (学校教育課)	13	100%	<table border="1"> <tr><td>事業の妥当性</td><td>5</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>5</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>5</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>5</td></tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	5	効率性(コスト)	5	効率性(人員)	5	全8講座を、実施した。浜岡中25人、白羽小29人の参加があった。本年度は小中学生との交流も浜岡中3回、白羽小3回実施した。事後アンケートでは、「子供と交流することで多くの刺激をもらった」等、受講者の多くが満足しており、「地域とともにある学校づくり」の推進に繋がった。	①継続 浜岡中、白羽小の2会場で8講座を実施する。講座の内容については、シニアの代表者と協議して参加者の満足感と意欲の向上につなげていく。
事業の妥当性	5												
効果性	5												
効率性(コスト)	5												
効率性(人員)	5												

事業	重点取組	執行度	点 検 ・ ( 評 価 )		今後の方向								
ウェブサイトなどによる広報活動の充実 (教育総務課・学校教育課・社会教育課・各学校)	-	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>4</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	5	効率性(コスト)	3	効率性(人員)	4	<p>教育委員会定例会、臨時会等の会議録をウェブサイトに掲載した。また、既存の情報についての見直しを行った。</p> <p>教育委員会後援名義申請をこれまでの用紙に加え、Logoフォームも可能とした。</p> <p>広報にはウェブサイトやLINE等を有効に活用することができた。</p>	<p>①継続</p> <p>市民への情報提供は、施策立案の上でも重要な業務であることから、市民の理解や協力を得られるよう、ウェブサイトやLINE等を活用し、今後も随時、情報を発信する。</p> <p>市民が受け取りやすく、理解しやすい情報の発信に努めるとともに、Logoフォームの活用等による意見や情報の収集についても検討したい。</p>
事業の妥当性	5												
効果性	5												
効率性(コスト)	3												
効率性(人員)	4												

※Logoフォーム：電子申請システム

学校支援地域本部の実施 〔地域学校協働本部〕 (学校教育課)	-	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>5</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	5	効率性(コスト)	5	効率性(人員)	5	<p>園・学校の要望に応じて、登録ボランティアを派遣している。園・学校からは、継続してボランティア派遣の依頼があり、地域の貴重な人材を活用することができている。本年度は、建設業組合による環境整備や家庭科授業へのミシンボランティア、待機看護師の派遣、小学校のクラブ活動の講師、中学校技術科木材加工への支援などが行われた。2人の地域コーディネーターが主となり、204人35団体のボランティア登録と園・学校との橋渡しを行い、のべ1789人を派遣し、地域全体で学校教育を支援することができた。</p>	<p>①継続</p> <p>園・小・中からのニーズは多岐に渡り、欠かすことのできない組織となっている。地域の人材を活用することで開かれた学校運営にもつながっている。今後も各園・各校のニーズに応えられるように、新たなボランティアを開拓し、学校支援地域本部を継続していく。</p>
事業の妥当性	5												
効果性	5												
効率性(コスト)	5												
効率性(人員)	5												
防災教育の推進 (学校教育課)	-	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>5</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	5	効率性(コスト)	5	効率性(人員)	5	<p>各園・各校の防災対策マニュアルを、「生活安全」「交通安全」「災害安全」の3つの領域についての対策が記載されているか、または策定されているか確認し、見直しを図るよう指導した。防災教育については県で推進しているジュニア防災士の資格取得を推奨し、防災意識を高めるきっかけ作りとした。園と小による異校種間の引き渡し訓練を行った。</p>	<p>①継続</p> <p>これまでのように、地域防災訓練への参加を各校で呼びかけ、児童生徒が参加できるようにする。ジュニア防災士などの県の事業も活用しながら、授業や学級活動などで防災についての内容を取り入れ、地区で活躍できる小中学生の育成を図る。防災教育推進についての連絡会議等の実施を進め地域とも連携を図っていく。</p>
事業の妥当性	5												
効果性	5												
効率性(コスト)	5												
効率性(人員)	5												
キャリア教育の充実 (学校教育課)	-	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>5</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	5	効率性(コスト)	5	効率性(人員)	5	<p>CS(コミュニティスクール)ディレクターによって平成30年度に両中学校のキャリア教育の体制が整った。職業講座を実施し、地元の様々な職業人から仕事内容ややりがいについて話を聞き、生徒自身の将来の夢や人生について考える機会を設定した。働く人の思いや願いに触れ、望ましい職業観の育成に繋がった。また職業体験学習も実施し、活動を通し、社会人として必要な心構えや資質について学ぶとともに、自分の今後の目標について考える機会となった。</p>	<p>①継続</p> <p>職業体験や職業講座など開かれた教育課程を実現していくためにも、体験や講座の内容を工夫し、職業観や生き方について考える場を設けていく。</p>
事業の妥当性	5												
効果性	5												
効率性(コスト)	5												
効率性(人員)	5												

5-1-2 人としての根を養うための、市の特色を生かした教育の推進

事業	重点取組	執行度	点 検 ・ ( 評 価 )		今後の方向
園の読書環境の整備 (学校教育課)	3	100%	事業の妥当性	5	<p>①継続</p> <p>子どもたちが絵本に触れたり、興味が持てたりできる機会や環境整備の充実を継続していく。また、親子の触れ合いのツールとして読み聞かせの効果について引き続き、発信していく。</p>
			効果性	5	
			効率性(コスト)	5	
			効率性(人員)	5	
学校における読書活動の推進 (学校教育課)	3	100%	事業の妥当性	5	<p>①継続</p> <p>学校図書館連絡会での講話内容をニーズに合わせて依頼していく。本年度に引き続き、クロムブックのクラスルームを活用し読書推進に関する情報をいつでも共有できるようにしていく。</p>
			効果性	5	
			効率性(コスト)	5	
			効率性(人員)	5	
市立図書館と学校図書館との連携 (図書館・学校教育課)	3	100%	事業の妥当性	5	<p>①継続</p> <p>「子どもたちが本と親しむまち御前崎」を目指し、学校図書館連絡会や各学校との話し合いの場を通して、引き続き市立図書館と学校図書館相互の連携を図り、読書活動を推進していく。</p>
			効果性	5	
			効率性(コスト)	5	
			効率性(人員)	5	
市内各小学校における海洋スポーツ体験活動 (社会教育課)	2	100%	事業の妥当性	5	<p>①継続</p> <p>御前崎の海の良さを体感してもらい、地元に着用を持ってもらえるよう引き続き全小学校で実施していく。</p>
			効果性	5	
			効率性(コスト)	4	
			効率性(人員)	4	

※SUP: サーフィンの大きめのボードに立ちパドルを漕いで水面を進むスポーツ。

事業	重点取組	執行度	点 検 ・ ( 評 価 )		今後の方向
青少年体験事業「御前崎クエスト」の実施 (社会教育課)	2	100%	事業の 妥当性	5	①継続 今後も地域資源を活かした事業による人材育成を継続する。 幅広い年代の方々を受け入れる体制づくりを検討するとともに、更なる「御前崎クエスト」への周知や関心の促進を図る。 事業運営を再考し、長期にわたって事業に携わる人材育成に努める。
			効果性	5	
			効率性 (コスト)	5	
			効率性 (人員)	5	

※グローバル:グローバル(地球規模)とローカル(地域規模)を組み合わせた造語。地球規模の広い視野を持ちながら、地域に根差した視点で行動する考え方。御前崎クエストでのグローバルの活動は、中高生のグループ。

情報モラル学習の推進 (学校教育課)	8	100%	事業の 妥当性	5	①継続 スクラム・スクール運営協議会で取り組んでいる「ネット依存やゲーム障害」から子どもを守る活動を推進する取組を今後も実行していく。児童生徒、保護者に実施したネット利用状況アンケートをもとに、児童生徒・保護者それぞれに対する支援を進めるため、事業を継続していく。
			効果性	5	
			効率性 (コスト)	5	
			効率性 (人員)	5	
家庭教育支援の推進 (学校教育課)	1・5	100%	事業の 妥当性	5	①継続 標準学力調査の質問紙調査から、本市の子どもたちはネットを長時間利用する割合が全国平均より高い状態が続いている。今後も家庭教育支援を推進し、子どもたちの生活習慣の課題を解決する必要があるため、事業を継続していく。
			効果性	5	
			効率性 (コスト)	5	
			効率性 (人員)	5	
サポート隊の推進 (社会教育課)	-	100%	事業の 妥当性	5	①継続 今後も地域と連携して、地域で子どもを守り育てる見守り活動を継続していく。また、この活動を通して住民間の関わりが深まることも狙う。活動が長期化することで意欲低下を防ぐため、市の感謝状規程に則り、対象者に感謝状贈呈を行う。
			効果性	4	
			効率性 (コスト)	5	
			効率性 (人員)	4	

事業	重点取組	執行度	点 検 ・ ( 評 価 )		今後の方向		
こども110番の家の推進 (社会教育課)	-	100%	事業の妥当性	5	<p>市内小学校PTAが中心となり、学区内の商店等に参加の継続・新規登録を確認し、本年度は420件の登録があった。</p> <p>登録者には「こども110番の家」の旗やプレートを配布し、いつでも子どもたちが助けを求められる体制をとっている。また、学校に依頼して「こども110番の家」の周知を図った。</p>	①継続	この活動は、市民全体の理解と協力が必須である。直接関わる子どもと登録者へ改めて説明・周知するとともに、市民全体へ紹介し、不測の場合にも対応できる体制を築いていく。また、今後も学校へ情報提供の依頼、啓発活動、登録者に用具の提供を行っていく。
		効果性	4				
		効率性(コスト)	4				
		効率性(人員)	4				
声かけ運動の推進 (社会教育課) ※静岡県事業	-	100%	事業の妥当性	5	<p>県が実施している「地域の青少年声かけ運動」に協働し、参加者を募っている。園・学校・市職員・地区役員等の新規賛同者を広める活動をした結果、本年度新たに70人の新規参加者を迎え、累計登録者は5,442人となった。また、活動を研修会や会議で紹介し、積極的な声かけを呼びかけた。青少年を地域で育てる意識を醸成できた。</p>	①継続	県の指標が新規参加者数から研修会等での広報・周知となった。本市としては広く周知活動をするとともに参加者の募集も続けていく。
		効果性	4				
		効率性(コスト)	5				
		効率性(人員)	5				
青少年補導活動の実施 (社会教育課)	-	100%	事業の妥当性	5	<p>夜間の出歩き等、直接青少年を見かける機会が減ってきているが、新型コロナの規制も無くなり、青少年の行動も広がると思われる。</p> <p>青少年補導員の活動として、花火大会、冬季の県下一斉補導、はたちの集い、中学校卒業式での巡視を行った。少年の非行防止を啓発する活動ができた。</p>	①継続	市民・商店への非行抑制の意識向上と青少年への啓発のため今後も活動を継続する。また、補導活動の在り方について、今後検討していく。
		効果性	3				
		効率性(コスト)	4				
		効率性(人員)	3				
「はたちの集い」の開催 (社会教育課)	-	100%	事業の妥当性	5	<p>令和4年4月の民法改正により「成人式」を「はたちの集い」と名称を変更し実施している。コロナ禍前とほぼ同じ形で実施できるようになり、312名中243名の参加があった。</p> <p>また、新たな試みとして、はたちの集い実行委員会を立ち上げ、参加者のニーズに合った式典となるよう、検討を行った。結果、式典と恩師からの言葉やアトラクションを分け、2部制とした。式典にメリハリが出来、参加者や参加者家族らにも好評であった。</p> <p>その他、商工会と連携し20歳を祝う協賛店を募集し店舗特典を受けることができるようにした。</p>	①継続	今後も、20歳という人生の節目を祝う式典として開催していく。引き続き、実行委員会を組織し、式典内容等の見直しを実施する。
		効果性	5				
		効率性(コスト)	4				
		効率性(人員)	4				

事業	重点取組	執行度	点 検 ・ ( 評 価 )		今後の方向								
親子工作教室の実施 (社会教育課)	-	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>4</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	5	効率性(コスト)	5	効率性(人員)	4	<p>令和5年度で40回目を迎えた歴史ある教室であり、工作をとおして親子の関わりづくりや木のぬくもりを親子で体験できる貴重な場となっている。25家族53名の小学生親子が参加した。募集開始とともに短期間で定員となる人気の教室である。</p> <p>当日は、工作をとおして親子の積極的な関わりが見られ、秀作やオリジナルティあふれる作品を作り上げており、活動のねらいを十分達成した。</p>	①継続 この教室は、地域の木工組合と材木業者の協力応援無しでは出来ない教室である。今後も協力者と連携を密にして行う。 また、本活動を生涯学習ガイドブックに掲載するとともに全児童に募集要項を配布し、広く参加を募っていく。
事業の妥当性	5												
効果性	5												
効率性(コスト)	5												
効率性(人員)	4												
市青少年健全育成会議事業の実施 (社会教育課)	1	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>4</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	5	効率性(コスト)	4	効率性(人員)	4	<p>青少年健全育成会議は地域、学校、行政の関係者で組織しており、会議では地域の青少年を取り巻く現状課題、重点取組を情報共有している。本年度は、学社連携していくため、スクラムスクール運営協議会を青少年健全育成会議委員が視察し、各地区の活動に反映するため、課題や情報共有を行った。また、市重点取組「早寝早起き朝ご飯など基本的生活習慣の啓発」「ゲーム障害やネット依存への対策」を明記したものを通知し、各種地区組織への周知が図られた。</p>	①継続 今後も学社連携を密にし、地区推進組織と情報共有を図り地域全体で青少年健全育成に取り組む。
事業の妥当性	5												
効果性	5												
効率性(コスト)	4												
効率性(人員)	4												
「スクラム御前崎の集い」の開催 (社会教育課・学校教育課)	1	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>4</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	5	効率性(コスト)	5	効率性(人員)	4	<p>令和3年度から、スクラム・スクール運営協議会と共催し、学校、家庭、地域、行政が連携して子どもを守り育てるための講演会を開催している。</p> <p>本年度は、「子ども達の考えを肌で感じる」ことを目指し、市内中学校の生徒と社会教育関係者、学校教育関係者とのワークショップを行い、中学生7名、高校生1名、大人17名、合計25名の参加があった。全体ファシリテーター及び講師には、静岡大学 阿部耕也教授をお招きした。参加者からのアンケートには「大変良かった」「異年齢間での対話は刺激になった」と好評であった。</p>	①継続 令和6年度は、静岡県と連携して、11月に子供・若者育成支援推進強調月間県大会を御前崎市で行う。市青少年健全育成会議とスクラム・スクール運営協議会の共通重点取組である「ゲーム障害・ネット依存防止」についての講演を行う。静岡県と連携することで、市内外にもアピールし、子どもを守り育てる活動を推進する。
事業の妥当性	5												
効果性	5												
効率性(コスト)	5												
効率性(人員)	4												

5-2-1 生きていく力の基礎の育成

事業	重点取組	執行度	点 検 ・ ( 評 価 )		今後の方向									
主体的な遊びや体験を充実させる環境作り (学校教育課)	4	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>4</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	5	効率性(コスト)	5	効率性(人員)	4	子どもたちの興味や関心、育ちを捉え、主体的な遊びや体験を積み重ねていくために、素材や玩具の選定や配置、今日から明日へつなぐ遊びや活動のしかけなどについて、研修などを通して学び、各園、各自が工夫しながら取り組むことができた。	①継続	幼児理解、子どもの豊かな学びに繋がるしかけなど「遊び込む子」を目指し、実態や発達に応じた環境やしかけについて研修を継続していく。
事業の妥当性	5													
効果性	5													
効率性(コスト)	5													
効率性(人員)	4													
【再掲】p.3 園の読書環境の整備 (学校教育課)														
地域の教育力を生かした保育の推進 (学校教育課)	-	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>4</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	4	効率性(コスト)	4	効率性(人員)	4	コロナ感染症の対応が緩和されたことで、園外活動や行事、活動の協力等地域と繋がる機会が増えてきた。園の環境整備のボランティア等、様々な角度から地域の方が園を支えてくれる関係が構築され、地域の人・もの・ことに触れる活動の推進が図られている。	①継続	園から地域へ積極的に呼びかけや発信をしたり、学校支援コーディネーターに依頼したりし、子どもたちの学びや育ちに必要なることを精査しながら地域と繋がり、地域に根付いた園を目指す。
事業の妥当性	5													
効果性	4													
効率性(コスト)	4													
効率性(人員)	4													
教諭・保育士対象各種研修会の実施 (学校教育課)	4	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>5</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	4	効率性(コスト)	4	効率性(人員)	5	乳児研修、実技研修、支援員研修と講師を招聘し立場に応じた各研修を実施したことで保育実践に役立つことができた。また園内研修においても各園の重点目標や課題に向かい、ドキュメンテーション(子どもの言動を写真を用いて保育者の視点から記録したもの)なども取り入れた研修がおこなわれ、幼児理解や環境構成について、職員が語り合い、学び合える研修となった。	①継続	幼児理解、子どもの豊かな学びに繋がるしかけなど各職員の保育力の質の向上が求められている。園の統合や再編など大きく変化する中だが、歳児別やキャリア別の研修を実施し、立場や役割を意識させ、職員の主体的な研修への意識を高めていく。
事業の妥当性	5													
効果性	4													
効率性(コスト)	4													
効率性(人員)	5													
【再掲】p.4 家庭教育支援の推進 (学校教育課)														

事業	重点取組	執行度	点 検 ・ ( 評 価 )		今後の方向									
アプローチ・スタートアップブックの活用 (学校教育課)	5	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>5</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	5	効率性(コスト)	5	効率性(人員)	5	<p>年度内に小学校5校の入学説明会に出向き、説明しながら配付した。園から就学へ向けての支援を丁寧に行い、子どもや保護者の安心につながる働きかけを充実させた。</p> <p>家庭教育で大切にしてほしい「早寝・早起き・朝ごはん」や「ネット依存・ゲーム障害」のスクラムの取組についても掲載しているので、市が一体となって取り組んでいることについて呼びかけを行うことができた。</p> <p>また、幼小接続の重要性については、スクラム研究会での研修を通して、園・小の職員の意識を本年度さらに高めることができた。</p>	①継続	<p>内容が厳選されまとまってきたので、大きな変更はせず、修正を加えてできるだけコストを抑え作成していく。各小学校の入学説明会での保護者に向けての配付と講話は継続していきたい。園・小学校の公開保育や公開授業に互いに参加しあい、具体的な子どもの姿から幼小の接続についての理解を深めていく。</p>
事業の妥当性	5													
効果性	5													
効率性(コスト)	5													
効率性(人員)	5													
巡回相談、教育相談の実施 (学校教育課)	10	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>5</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	5	効率性(コスト)	5	効率性(人員)	5	<p>巡回相談では園や各校のニーズに応じて年2回ずつの効果的な相談ができた。</p> <p>教育相談は、案内の方法や申込方法をメール配信、電子申請にし、学校や保護者の負担を軽減できている。相談内容をできるだけ早く各園や学校に伝えることで情報の共有ができ、適切な支援につながった。</p>	①継続	<p>本年度同様、来年度も園や学校が必要な時期に巡回相談ができるように希望調査を取って計画していく。</p> <p>教育相談については、メールでの案内配信や申込を電子申請で継続することで気軽に利用できるようにしていく。</p>
事業の妥当性	5													
効果性	5													
効率性(コスト)	5													
効率性(人員)	5													
個性伸長支援員の配置 (学校教育課)	10	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>5</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	5	効率性(コスト)	5	効率性(人員)	5	<p>個別の支援を要する子が年々増加傾向にあり、対応は複雑化してきている。市の乳幼児教育を理解し、継続して就労する会計年度任用職員が多く、1～5歳児クラスに支援員を配置することができた。会計年度任用職員の支援員も経験や研修により力をつけ、一人一人に応じた適切な支援に尽力している。</p>	①継続	<p>正規職員においても支援のスキルや資質能力の向上が喫緊の課題であるため、研修などを通し、幼児理解や個に応じた支援の仕方の力をつけていく。適正な支援員を配置し、子ども一人一人の育ちを支えていく。</p>
事業の妥当性	5													
効果性	5													
効率性(コスト)	5													
効率性(人員)	5													

事業	重点取組	執行度	点 検 ・ ( 評 価 )		今後の方向								
療育指導員による療育の推進と充実 (学校教育課・こども未来課)	5・10	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>4</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	5	効率性(コスト)	5	効率性(人員)	4	<p>学校教育課とこども未来課で連携を図りながら乳幼児の療育をすすめ充実させることができた。園訪問を実施することで園との連携もでき、教職員へのアドバイスや子どもの実態把握にも努めた。また、療育教室「ほっとケーキ」の療育指導員が園に出向いて行う教室を2園行ったり、園の支援員が西館で行っている教室に参加したり、さらに園との協力関係を強化することができた。</p>	<p>①継続</p> <p>早期療育に対する保護者への理解や啓発は引き続き丁寧な働きかけが必要である。療育指導員の園訪問や療育教室事業、相談事業を充実させるとともに、園における支援の底上げに力を入れていく。そのために、療育指導員のスキルアップ、人材確保を行っていく。</p>
事業の妥当性	5												
効果性	5												
効率性(コスト)	5												
効率性(人員)	4												
適切な職員配置 (学校教育課・総務課・こども未来課)  ※前年度まで「園職員の確保」として掲載	-	90%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>4</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	5	効率性(コスト)	4	効率性(人員)	4	<p>正規職員の不足により、全園に副園長が配置できておらず、担任を会計年度任用職員が担う状況が続いている。早番・遅番対応の職員が配置されていることで、職員の研修時間は確保されている。外国籍児支援員を池新田幼稚園に配置したことで、子どもの園での安定はもちろん、家庭支援にも成果が得られた。</p>	<p>①継続</p> <p>正規職員不足に伴い、会計年度任用職員で補っていた支援員や早番・遅番などの業務も正規職員が今後担うことが予想される。大きく変化する園体制に見通しを持ちながら、安全安心な園運営、子どもの豊かな育ちを支える保育・教育の実現の為に、園と各課と連携を図り、配置をしていく。</p>
事業の妥当性	5												
効果性	5												
効率性(コスト)	4												
効率性(人員)	4												

5-2-2 変化の激しい今後の社会を生き抜くための資質・能力の育成

事業	重点取組	執行度	点 検 ・ ( 評 価 )		今後の方向
市独自の学力調査の分析と活用 (学校教育課)	7	100%	事業の 妥当性	5	①継続 子どもたちの現状や当市の教育の今を客観的に知る上では重要なものであり、授業改善や家庭支援につながる資料となっている。来年度も本年度同様に実施し、子どもたちの学力向上につなげていく。
			効果性	5	
			効率性 (コスト)	5	
			効率性 (人員)	5	
全国体力運動能力・運動習慣等調査の分析と活用 (学校教育課)	9	100%	事業の 妥当性	5	①継続 学力と同時に子どもたちの体力の状況等についても分析・活用し、心身ともに健やかな成長の支援に繋げていく。
			効果性	5	
			効率性 (コスト)	5	
			効率性 (人員)	5	
スクラム研究会の実施 (学校教育課)	4	100%	事業の 妥当性	5	①継続 ”遊びこむ子”の育成のために、どんな体験をさせたいか、どの遊びだと誰がどのような活躍ができるかを明確にした保育を構成していく。また、園で大事にしていること、育てていることを引き続き公開保育や研究会を通し、小中学校へ積極的に発信し、共有していくことで「途切れない教育」を遂行させていく。
			効果性	5	
			効率性 (コスト)	4	
			効率性 (人員)	4	
スクラムセミナーの実施 (学校教育課)	7	100%	事業の 妥当性	5	①継続 個別最適な学びは、学力の向上だけでなく、個に応じた生徒指導にもつながる授業観であり、今後も魅力ある学校づくりをする上で重要な視点となる。来年度も訪問による実施を進め、さらに各校の授業改善を進めていく。
			効果性	5	
			効率性 (コスト)	5	
			効率性 (人員)	5	

事業	重点取組	執行度	点 検 ・ ( 評 価 )		今後の方向								
教職員対象各 研修会の実施 (学校教育課)	7	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の 妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性 (コスト)</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性 (人員)</td> <td>5</td> </tr> </table>	事業の 妥当性	5	効果性	5	効率性 (コスト)	5	効率性 (人員)	5	<p>教職員の分掌等に応じた各種研修会を年間計画に位置付け、実施した。授業改善推進委員会では、御前崎市授業改善テーマの実現に向け、子ども主体の授業づくりにむけて具体的な実践をイメージした協議ができた。ICT推進委員会では、ICT機器を利用するだけでなく、効果的な活用について研修を進めた。3年目教員は、学力向上コンサルタントの指導のもと、教育実践を研究論文にまとめ、教育団体の教育研究奨励賞に応募、表彰され若手教職員の自信や意欲向上につながった。</p> <p>それぞれの研修は、各立場の市内の教員が情報交換できる機会でもあり、共有された研修内容を各校で広め、深化させることで、「スクラム御前崎」の浸透が図られるように実施してきた。</p>	①継続 教員等育成指標に基づき、新学習指導要領の実施に向け、経験及び職務別に求められる資質能力の育成が図れるようさらに内容を充実させていく。各種研修会における目標を明確にし、達成するための手立てや達成状況を学校教育課内で共有し、教職員の資質・能力の向上につながる実効性の高い研修を行う。
事業の 妥当性	5												
効果性	5												
効率性 (コスト)	5												
効率性 (人員)	5												
外国語指導助手(ALT)及び 英語活動指導員の配置 (学校教育課)	7	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の 妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性 (コスト)</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性 (人員)</td> <td>5</td> </tr> </table>	事業の 妥当性	5	効果性	5	効率性 (コスト)	5	効率性 (人員)	5	<p>ALT2名と英語活動指導員、英語専科教員を各1名ずつ小中学校に派遣し、小学校外国語活動・外国語の授業の充実を図った。年度途中の英語活動指導員の退職に伴い、教育の機会均等を保つためにALTをもう1名追加し対応した。ALTと英語活動指導員、英語専科教員がいることで、子どもたちが生の英語に触れ、楽しく学習できている。また、教職員が外国語の授業づくりについて研修を深め、ALTを効果的に活用している。</p>	①継続 英語専科配置がない学校に優先的にALTを配置していく。その際、ALT等の持ち時数に偏りがないように計画的な配置をしていく。また、英語専科教員担当の学校にも子どもたちが生の英語に触れる機会を作っていく。
事業の 妥当性	5												
効果性	5												
効率性 (コスト)	5												
効率性 (人員)	5												
ICT支援員の配置 (学校教育課) (教育総務課)	8	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の 妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性 (コスト)</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性 (人員)</td> <td>5</td> </tr> </table>	事業の 妥当性	5	効果性	5	効率性 (コスト)	4	効率性 (人員)	5	<p>ICT支援員が全校配置となつてから5年目となる。本年度は、各小学校毎週1回(第一小のみ毎週2回)、中学校隔週1回の支援とし、授業をはじめ、1人1台端末の活用を着実に支援した。中学校では、授業だけでなく、校務のDX化に向けた支援も進めることができた。学校教育の情報化を進めるうえで、現場の先生方からは高く評価されている。</p>	①継続 1人1台端末の活用に向けて、環境整備や校内研修、授業支援の充実を図っていく必要がある。専門家であるICT支援員は学校にとって今後も必須であるため、引き続き配置を実施していく。
事業の 妥当性	5												
効果性	5												
効率性 (コスト)	4												
効率性 (人員)	5												

※DX: デジタルトランスフォーメーション (ICTの浸透が人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させること/総務省サイトより)

【再掲】p.4 情報モラル学習 の推進 (学校教育課)					
--------------------------------------	--	--	--	--	--

事業	重点取組	執行度	点 検 ・ ( 評 価 )		今後の方向									
エネルギー教育の推進 (学校教育課)	2	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>5</td> </tr> </table>	事業の妥当性	4	効果性	4	効率性(コスト)	5	効率性(人員)	5	<p>各小中学校で、理科や社会科の授業等を行う際に、各発電のしくみや社会とエネルギーの関係などについて、中部電力株式会社職員をゲストティーチャーに迎え出前講座を実施した。また、小学生が、浜岡原子力発電所を見学し、原子力発電のしくみや安全対策の様子を中部電力職員から説明を受けた。エネルギー教育研修会として、愛知教育大学土屋武志教授を招聘し、地域の材を活用した授業の可能性について研修を実施した。</p> <p>事業を通して、教科における身に付けたい資質能力の向上につながった。</p>	①継続	各教科の目標に沿って、エネルギー(発電や環境)について自ら考え判断する力を身につけるためにも継続していく。
事業の妥当性	4													
効果性	4													
効率性(コスト)	5													
効率性(人員)	5													
【再掲】p.3 学校における読書活動の推進 (学校教育課)														
【再掲】p.3 市立図書館と学校図書館との連携 (図書館・学校教育課)														
「しおかぜ先生」の配置 (学校教育課)	6	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>4</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	5	効率性(コスト)	5	効率性(人員)	4	<p>不登校対策として、第一小と浜岡中にしおかぜ先生を配置している。前年度同時期と比べ、第一小では不登校児童数が10名弱増加しており、浜岡中学校においては、ほぼ同数であるものの、いずれも他校に比べ多い。教室に入れない不登校の児童生徒にとって、しおかぜ先生の存在は、重要な心のよりどころとなっている。</p>	①継続	不登校児童生徒への早期対応のために、相談役の教員の配置を継続し、その効果を検証する。また、対応の充実のために、校内適応指導教室への配置について今後も継続するとともに、必要な人材確保に努めていく。
事業の妥当性	5													
効果性	5													
効率性(コスト)	5													
効率性(人員)	4													
学習支援員等の配置 (学校教育課)	10	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>5</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	5	効率性(コスト)	5	効率性(人員)	5	<p>学校の実態に合わせ、各校の支援員数を調整した。入学当初の1年生や保健室への来室児童生徒へのきめ細かな対応が可能となり、落ち着いた学習環境づくりにつながっている。</p> <p>各専門指導員は、外国人対応等それぞれの専門性を生かし、職員や児童生徒の指導・支援、ケース会議や各専門機関との連携等に力を発揮し、安定した学校運営を支えている。</p>	①継続	年々、通常学級における特別支援を要する児童生徒が増加傾向にあり、学習支援員の必要性はますます高まっている。各校の要望を聞き、効果的な配置にしていける。
事業の妥当性	5													
効果性	5													
効率性(コスト)	5													
効率性(人員)	5													

事業	重点取組	執行度	点 検 ・ ( 評 価 )		今後の方向									
いじめ問題対策 連絡協議会の実施 (学校教育課)	6	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の 妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性 (コスト)</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性 (人員)</td> <td>5</td> </tr> </table>	事業の 妥当性	5	効果性	5	効率性 (コスト)	5	効率性 (人員)	5	いじめ防止対策推進法の規定に基づき、御前崎市いじめ問題対策連絡協議会等設置条例を制定し、御前崎市いじめ問題対策連絡協議会が設置されている。関係機関(警察・児童相談所・福祉課・こども未来課等)・小中学校生徒指導担当・SC・SSWが委員を務め、いじめの防止等に必要な事項を協議したり、連携調整を図ったりすることを目的としている。各校のいじめの実情や対応について情報共有を通し、関係機関の連携を強化した。協議会ではグループ演習も行い、いじめの事例をもとに各関係機関の視点で考えらえる対応について協議をした。	①継続	いじめの積極的な認知と丁寧な指導を進めていくために、法に基づく環境整備に努める。また、関係機関の担当者が互いに顔の見える関係を構築するために実施する。
事業の 妥当性	5													
効果性	5													
効率性 (コスト)	5													
効率性 (人員)	5													

※SC:スクールカウンセラー・SSW:スクールソーシャルワーカー

【再掲】p.1 シニアスクールの 実施 (学校教育課)														
家庭教育学級 への支援 (社会教育課)	5	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の 妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性 (コスト)</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性 (人員)</td> <td>4</td> </tr> </table>	事業の 妥当性	5	効果性	5	効率性 (コスト)	5	効率性 (人員)	4	家庭教育学級活動支援補助金を活用して3学級が開設し、演劇鑑賞や親子工作など親子活動を通して家庭教育の支援ができた。	①継続	今後も、各園、学校が継続的な学習活動を推進できるよう支援する。 また、充実した学習活動を図るため、園長会等で情報交換や、こちらからの情報共有を行う。
事業の 妥当性	5													
効果性	5													
効率性 (コスト)	5													
効率性 (人員)	4													
家庭教育支援 員の配置 (社会教育課)	5	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の 妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性 (コスト)</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性 (人員)</td> <td>4</td> </tr> </table>	事業の 妥当性	5	効果性	5	効率性 (コスト)	5	効率性 (人員)	4	家庭教育支援員は、家庭教育に資する事業を実施するため、幼稚園教諭や保育士OBを中心に7名委嘱している。 共働き親子へ夕食を安価で提供する家庭教育支援事業「だれでも食堂もぐもぐ」は、民間団体へ上限15,000円を補助している。本年度は「加多世(毎月1回)」「マツイ学園(年2回)」「ありがとう(年2回)」「合亀(年3回)」、更に「だれでもみんな食堂」が初開催され、5団体が実施し、延べ560名が参加した。子ども連れでも気軽に参加でき、家族のふれ合いの場となっている。また、子育て家庭への支援・相談の機会として、親子を対象にした「あそび塾」を開催し80名の参加があった。 両活動へ家庭教育支援員が参画することで、親同士の交流を促し、家庭教育支援員への相談機会が増えた。	①継続	「もぐもぐ」は、各地区1団体を目指し活動の周知や活動への参加を促す。 「あそび塾」も、必要な親子に情報が届くように、こども未来課とも連携し取り組みを進めていく。また、「あそび塾」の活動を充実させるため、家庭教育支援員の増員を目指す。
事業の 妥当性	5													
効果性	5													
効率性 (コスト)	5													
効率性 (人員)	4													
【再掲】p.8 巡回相談、教育 相談の実施 (学校教育課)														

事業	重点取組	執行度	点 検 ・ ( 評 価 )		今後の方向									
就学支援委員会、個性伸長支援教育専門家チーム会議の実施 (学校教育課)	10	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>5</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	5	効率性(コスト)	5	効率性(人員)	5	<p>就学支援委員会では、特別な教育的支援を必要とする児童生徒に対し、進路を見据えて適切な学びの場はどこか審議することができた。新学齢児の就学支援について、園担当指導主事、園、学校が連携を図り見直しをもって丁寧な就学支援を進めることができた。</p> <p>専門家チーム会議は年2回行い、個の実態を把握した上で、より良い支援の方法について話し合うことができた。</p>	①継続	年度初めのコーディネーター研で1年間の流れや資料の作成の仕方、適切な学びの場の判断基準など、就学支援に関わる内容について毎年丁寧に周知を図っていく。また、専門家チーム会議を活用し、通常学級の中での支援や通級指導についてアドバイスいただき指導を充実していく。
事業の妥当性	5													
効果性	5													
効率性(コスト)	5													
効率性(人員)	5													
適応指導教室「サンルーム」の設置 (学校教育課)	6	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>5</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	5	効率性(コスト)	5	効率性(人員)	5	<p>11月末時点で、13名(内、市立小中学校8名)の児童生徒が学んでいる。学校へ足が向かない生徒も適応指導教室での生活で、自主的に学習に取り組んだり、対人関係を築いたりすることができている。スタッフと学校が児童生徒に関する情報を共有し、個に応じた支援を工夫している。</p>	①継続	学校に通うことが難しい児童生徒にとっての居場所と、学びの場を提供する。学校との連携を密にし、通級児童生徒の子に応じた支援を行っていく。
事業の妥当性	5													
効果性	5													
効率性(コスト)	5													
効率性(人員)	5													
【再掲】p.8 アプローチ・スタートアップブックの活用 (学校教育課)														
学校のICT環境の向上 (教育総務課)	8	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>4</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	5	効率性(コスト)	4	効率性(人員)	4	<p>小学校1・2年生の学習者用端末をChromebookに更新し、1人1台端末下の共同学習の均一化が進み、低学年のクラウド利用が日常化した。また、AIドリルや授業支援機能を活用できるソフトウェアを導入し、個別最適な学びの方向に進んでいる。</p>	①継続	令和6年度のデジタル教科書の導入に向け、学習環境の整備をする必要がある。ICT機器利用実績及び学校ニーズを踏まえ、1人1台端末下でのICT環境の整備を更に推進していく。
事業の妥当性	5													
効果性	5													
効率性(コスト)	4													
効率性(人員)	4													
GIGAスクールの推進 (教育総務課) ※R4年度まで学校教育課と2課で担当	8	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>5</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	5	効率性(コスト)	5	効率性(人員)	5	<p>1人1台端末を活用した学びを充実させるために、クラウドの活用や授業支援ソフトウェアの活用が進んでいる。御前崎市の授業改善テーマである「子ども自身が学びを実感する授業」づくりが進む中で、子ども自身が活用方法を選択するなど、学び方の幅が大きく広がっている。また、御前崎市の授業改善やICT活用については、他市町からも視察を受け入れるようになった。本年度は、主に浜岡東小学校、白羽小学校や浜岡中学校などで合計10件程度の視察があった。</p>	①継続	これからの時代に必要な資質・能力を育成するために、GIGAスクール構想の推進は必須となる。クラウドを活用した学びの充実や個別最適化された学びをより充実させていくことで子どもの学力向上に取り組んでいく。また、インタラクティブの学びの充実を進めていく。
事業の妥当性	5													
効果性	5													
効率性(コスト)	5													
効率性(人員)	5													

※インタラクティブの学び:クラウドを活用した双方向の学び

5-2-3 子どもたちが可能性に挑戦できる教育環境の整備

事業	重点取組	執行度	点 検 ・ ( 評 価 )		今後の方向
安全安心な教育環境の向上 (教育総務課)	-	100%	事業の 妥当性	5	①継続 クラスの増減に応じた整備や、社会情勢やICT化の対応を行い、適正な整備、維持管理に努める。併せて長寿命化計画に沿って、各校の大規模修繕を実施する。
			効果性	5	
			効率性 (コスト)	5	
			効率性 (人員)	5	
特別教室の多機能化 (教育総務課)	-	100%	事業の 妥当性	5	①継続 今後も学校要望や重要度に応じて、引き続き整備を行っていく。
			効果性	5	
			効率性 (コスト)	5	
			効率性 (人員)	5	
学校再編計画の検討 (教育総務課)	12	100%	事業の 妥当性	5	①継続 学校再編計画案について慎重に検討し、市民の方々などへ丁寧な説明をしながら計画を策定していく。
			効果性	4	
			効率性 (コスト)	5	
			効率性 (人員)	5	
【再掲】p.15 学校のICT環境の向上 (教育総務課)					
ICT関連周辺機器の安定稼働 (教育総務課)	8	100%	事業の 妥当性	5	①継続 学校ニーズやトレンドをとらえて、必要な周辺機器の整備をコスト意識を持ちながら継続したい。
			効果性	5	
			効率性 (コスト)	4	
			効率性 (人員)	5	

5-2-4 子どもたちの心と体を支える安全で魅力ある学校給食の提供

事業	重点取組	執行度	点 検 ・ ( 評 価 )		今後の方向									
安全安心で魅力ある学校給食の提供 (学校給食共同調理場)	-	90%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>4</td> </tr> </table>	事業の妥当性	4	効果性	4	効率性(コスト)	4	効率性(人員)	4	安全安心な給食を提供するため、栄養教諭から調理配送委託業者に衛生管理、調理・配送等の作業工程に対する指導を毎日行った。給食に携わる職員、委託業者は毎月2回の保菌検査を実施し、衛生管理に努めた。毎月ふるさと給食の日を設け、地元産食材を使用した給食や、季節ごとの行事に合わせた給食献立、令和4年度から実施している学校給食アンケートにより苦手な食材を食べやすい味付けにするなど魅力ある給食の提供に努めた。異物混入を防ぐため厨房機器・調理器具に不具合が無いかを毎日点検している。	①継続	引き続き栄養教諭、委託業者と連携を密にし、安全安心で魅力ある学校給食の提供に努める。
事業の妥当性	4													
効果性	4													
効率性(コスト)	4													
効率性(人員)	4													
アレルギー対応の実施 (学校給食共同調理場)	-	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>2</td> </tr> </table>	事業の妥当性	4	効果性	4	効率性(コスト)	4	効率性(人員)	2	食物アレルギー対象の子どもの数が増加している。食物アレルギーによる事故防止のチェック体制は、センター所長、園長、校長が検食時に食物アレルギー食の確認を行った。更に食物アレルギー対応カードを用いて、栄養教諭、調理員、配送、園・学校の受取担当者及び担当が連携し6段階のチェック体制を図りながら食物アレルギー事故防止に努めた。また、『御前崎市学校給食における食物アレルギー対応マニュアル』に沿って、アレルギー対応品目(28品)の除去食を提供した。	①継続	引き続き園・学校と連携し、安全なアレルギー対応給食を提供し事故防止に務める。
事業の妥当性	4													
効果性	4													
効率性(コスト)	4													
効率性(人員)	2													
食育指導の推進 (学校給食共同調理場)	9	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>4</td> </tr> </table>	事業の妥当性	4	効果性	4	効率性(コスト)	4	効率性(人員)	4	小学校児童を対象とした栄養講座を行い、残食の減少・食物の好き嫌いを減らすなど『食』への意識を高めた。また小学校の学級活動や家庭科、総合的な学習で講師として授業に参画するとともに、給食時に訪問し食べる姿勢、マナー等の指導を行った。また給食に興味を持ってもらうよう夏休みに小学生を対象とした給食センター見学・体験会を開催し、「調理の大変さを知り、残さず食べたい。」と多くの参加者から感想をもらった。(保護者・児童30組)	①継続	引き続き食育指導及び給食献立で郷土・行事食や地場産物の活用を通し「食」への関心を深めるよう努める。
事業の妥当性	4													
効果性	4													
効率性(コスト)	4													
効率性(人員)	4													
地産地消の推進 (学校給食共同調理場)	-	70%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>3</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	4	効率性(コスト)	3	効率性(人員)	3	地元食材を積極的に活用するため農産物以外に海産物取扱業者にアプローチし納入業者登録の追加ができた。また納入業者に対し、説明会や納品時に地元食材を納品するよう声掛けをしている。小学生が考える献立メニューでは地元食材を使用した給食をテーマとする小学校もあり、地産地消に対する理解が深まっている。地産地消率は、市総合計画の最終目標値(令和7年)県内産63%、市内産31%に対し、県内産33%、市内産19%という結果だった。	①継続	生産者の高齢化、耕作面積の減少等により地産地消率の向上は厳しい状況であるが、引き続き積極的に給食で使用する食材を市内産、県内産とするよう、効率よく効果的な方法を検討する。
事業の妥当性	5													
効果性	4													
効率性(コスト)	3													
効率性(人員)	3													

5-3-1 笑顔でつながる学びの輪の醸成

事業	重点取組	執行度	点 検 ・ ( 評 価 )		今後の方向								
「おまえざき学びの航海図」の作成・活用と生涯学習講座等の充実 (社会教育課)	13	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>4</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	5	効率性(コスト)	5	効率性(人員)	4	<p>「学びの航海図」とは、ライフステージごとの目指す姿、大切にしたい取組例を記し、自らのこれまでの歩みと、これからの歩み方を記載できるものである。本年度は、シニアスクール・御前崎中学校、スクラム御前崎の集いで活用した。自身の学びを知り、対話することで、学びを繋ぐ取組となった。また、30回学びを記入することができる「学びのパスポート」については、30回の学びを修了された方が出てくるなど、徐々に認知されてきている。</p> <p>また、教育委員会が企画運営する講座の他、地区センター講座や自主講座など内容が多岐に渡る講座を市民に提供した。そして、講座情報を一元化した生涯学習ガイドブックを作成し、市民にわかりやすく情報提供を行った。更に、生涯学習ガイドブックダイジェスト版を作成し、新聞折り込みなどで広く市民にお知らせした。</p>	<p>①継続</p> <p>対話による学びや気づきが得られるよう、「学びの航海図」の活用を進めていく。また「学びのパスポート」で、学びの記録を見える化し、モチベーションアップに繋げる。また、生涯学習講座の充実を目指し、生涯学習ガイドブックのダイジェスト版作成により、市民に分かりやすい情報提供を行う。</p>
事業の妥当性	5												
効果性	5												
効率性(コスト)	5												
効率性(人員)	4												
社会教育学級活動への支援 (社会教育課)	13	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>4</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	5	効率性(コスト)	5	効率性(人員)	4	<p>本年度は、市内で活動する自主的な学習団体13学級が開設された。生活課題、地域課題など様々な分野に関する学び合いが行われ、地域コミュニティの向上に繋がる動きを支援することができた。講師への謝礼金や材料費などを補助し、充実した学習活動の一助となっている。</p>	<p>①継続</p> <p>各団体が補助金を活用し、学習活動を継続的に推進できるよう支援するが、あくまで活動が軌道に乗るまでの補助金であるため、補助金交付期間を定めるか検討する。</p> <p>なお、充実した学習活動となるよう、各学級の活動内容を情報交換できるような場を検討し、学習意欲の機運を高めていく。</p>
事業の妥当性	5												
効果性	5												
効率性(コスト)	5												
効率性(人員)	4												
「学びの循環」の仕組みづくりの推進 (社会教育課)	13	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>4</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	5	効率性(コスト)	4	効率性(人員)	4	<p>「学びの循環」とは、個人内での循環、学びの場としての循環が挙げられる。個人の学びの循環は、学びの航海図や学びのパスポートを活用することにより、更なる学びへの意欲を起している。また、学びの場としての循環は、それぞれの団体、制度を整理し、学びのプラットフォームを形成した。</p> <p>また、社会教育関係者を対象に研修会を実施し、学ぶことへの意欲の向上を図った。</p>	<p>①継続</p> <p>学びたい人が継続して学ぶことができる環境を整えるために、学びの循環の仕組みづくりの推進をしていく。</p>
事業の妥当性	5												
効果性	5												
効率性(コスト)	4												
効率性(人員)	4												

5-3-2 市民の豊かな心を育み、暮らしに寄り添う図書館づくり

事業	重点取組	執行度	点 検 ・ ( 評 価 )		今後の方向									
読み聞かせなどのボランティアとの協働 (図書館)	3	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>5</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	4	効率性(コスト)	5	効率性(人員)	5	毎月、読み聞かせボランティアグループ「土曜おはなし会」「ごんの会」と個人ボランティアによるおはなし会を開催した。「土曜おはなし会」は82名、「ごんの会」は94名の参加(4～11月)があり、参加者へ多様な絵本と出会う機会を提供できた。9月には静岡県読み聞かせネットワーク会長を講師に招いて読み聞かせボランティア研修会を開催し、スキルアップを支援することができた。	①継続	引き続き読み聞かせボランティアの活動を支援し、子どもたちの読書活動の活性化と、ボランティアで活動する市民の生涯学習・生きがい創成に繋げていく。
事業の妥当性	5													
効果性	4													
効率性(コスト)	5													
効率性(人員)	5													
【再掲】p.3 市立図書館と学校図書館との連携 (図書館・学校教育課)														
子どものための読書環境の整備 (図書館)	3	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>4</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	5	効率性(コスト)	4	効率性(人員)	4	「第2次御前崎市子ども読書活動推進計画」に基づいて取組を行い、市内全園への読み聞かせ、小学校・園への巡回貸出、毎月1回のハローブック事業への支援、ウェブサイト上でのテーマ別の本のリスト公開、季節や時事をテーマとした特集コーナーを設置するなど、乳幼児期から高校生まで年齢やニーズに合った読書活動の支援を行うことができた。計画の努力目標において全ての項目を達成できた。	①継続	今後も学校・園など関係機関と連携して子どもたちの読書活動を支援する取組を行い、実績数値を維持できるよう努めていく。
事業の妥当性	5													
効果性	5													
効率性(コスト)	4													
効率性(人員)	4													
市立図書館の充実した資料収集 (図書館)	3	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>4</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	4	効率性(コスト)	4	効率性(人員)	4	図書館の選書方針に則って、市民の読書傾向を踏まえつつ、蔵書のバランスや情報の正確性にも留意し資料を収集することができた。 市民からの図書資料のリクエストには、選書基準に則って可能な限り応えた。(4月～11月のリクエスト196件の96.4%に資料提供)	①継続	計画的に資料の収集を進め、市民の生涯学習を支える情報拠点としての役割を維持していく。
事業の妥当性	5													
効果性	4													
効率性(コスト)	4													
効率性(人員)	4													
図書館での展示や講演会など文化事業の開催 (図書館)	14	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>4</td> </tr> </table>	事業の妥当性	4	効果性	4	効率性(コスト)	4	効率性(人員)	4	2階展示ギャラリー等にて市民の作品を中心に展示を行い、市民の文化活動に貢献した。一般・児童対象の講座を計5回開催し、9月には絵本作家による開館30周年記念講演会を開催した。また、11月には閉館後の図書館にてSPAC出張劇場を開催し、市民が文化・芸術に触れる場を提供した。	①継続	今後も、市民のニーズに目を向けながら、多種多様な文化事業を提供していく。
事業の妥当性	4													
効果性	4													
効率性(コスト)	4													
効率性(人員)	4													

※SPAC:公益財団法人静岡県舞台芸術センター (Shizuoka Performing Arts Center : SPAC)

事業	重点取組	執行度	点 検 ・ ( 評 価 )		今後の方向
問題解決に対する情報提供などの支援 (図書館)	-	100%	事業の 妥当性	5	①継続 今後も研修参加を継続的に行い、市民からの問い合わせに対応できるように職員の能力向上を努めていく。
			効果性	4	
			効率性 (コスト)	4	
			効率性 (人員)	3	
図書館サービスとしてのレクリエーション (図書館)	-	-	事業の 妥当性	3	①継続 市民の憩いの場・集いの場として図書館の活用が期待されている。他市の状況を調査し、幅広い年代の居場所となるべく実現に向け進めていく。
			効果性	-	
			効率性 (コスト)	-	
			効率性 (人員)	-	
電子情報の利用促進 (図書館)	-	100%	事業の 妥当性	5	①継続 これからも、市民の利便性を考慮した情報発信・情報提供を行っていく。
			効果性	5	
			効率性 (コスト)	5	
			効率性 (人員)	5	
快適な読書空間の確保 (図書館)	-	90%	事業の 妥当性	5	①継続 開館から30年を超え、施設・設備の老朽化がさらに顕著となっている。今後も長寿命化対策を踏まえた個別施設計画に沿って、改修工事等の適切な維持管理を進めていく。
			効果性	5	
			効率性 (コスト)	3	
			効率性 (人員)	3	

5-3-3 心身ともに健康な市民を目指したスポーツの振興

事業	重点取組	執行度	点 検 ・ ( 評 価 )		今後の方向
マリンスポーツフェスタの開催 (社会教育課)	2	100%	事業の 妥当性	5	<p>①継続</p> <p>駐車場は県の土地を借用でき、安全に来場者を誘導できた。しかし、来場者の半数近くが市外の方であるため、市内の方の参加率が課題である。海での事業なので事故もなく安全安心な運営となるよう見直しを行いながら事業を継続していく。</p>
			効果性	4	
			効率性 (コスト)	4	
			効率性 (人員)	4	
御前崎市振興公社との連携によるスポーツ振興 (社会教育課)	14	70%	事業の 妥当性	4	<p>①継続</p> <p>今後も振興公社と連携することで、市民にスポーツを通じて健康維持と生きがいづくりに繋がるように取り組んでいく。</p>
			効果性	4	
			効率性 (コスト)	4	
			効率性 (人員)	4	
軽スポーツ教室・大会の開催 (社会教育課)	14	80%	事業の 妥当性	4	<p>①継続</p> <p>この活動は、生涯にわたっての健康増進につながっているため、今後は、より多くの市民の運動の機会の増進に寄与するため、さまざまな世代の参加者募集に努めたい。</p>
			効果性	4	
			効率性 (コスト)	4	
			効率性 (人員)	3	
静岡県市町対抗駅伝への参加 (社会教育課)	14	90%	事業の 妥当性	5	<p>①継続</p> <p>大橋新監督が就任し初めてのシーズンとなったが、これまでの選手育成・強化の方向性を引継ぎ実施出来ているため、大きな混乱等はなかった。 市町駅伝を通じて楽しく運動する機会を提供し、課題となっている小中学生の陸上競技人口を増やすべく積極的に広報活動を行っている。</p>
			効果性	4	
			効率性 (コスト)	4	
			効率性 (人員)	4	

事業	重点取組	執行度	点 検 ・ ( 評 価 )		今後の方向
県立池新田高校との連携 (社会教育課)	2	100%	事業の 妥当性	4	①継続 海洋スポーツの普及と、地元高校における郷土愛の醸成に向け、講師を派遣し、事業を実施していく。 講師の派遣人数にも限界があるため、適正な生徒数の設定と同時に県立池新田高校の独自運営ができるように連携していく。
	4	池新田高校が地域の特性を活かしながら3年前に新設したスポーツコースの生徒に対し、マリンスポーツの講師を派遣することで海洋スポーツを体験してもらい、御前崎の海の良さを知ってもらうとともに、将来の職業について考えるきっかけづくりを行うことができた。本年度は2つの学年で23人の生徒に対し、ウインドサーフィンとSUPを体験してもらうことができた。	効果性	3	
	4				
			効率性 (コスト)	3	
効率性 (人員)	4				

5-3-4 文化・芸術の継承と振興及び文化財の保護と活用

事業	重点取組	執行度	点 検 ・ ( 評 価 )		今後の方向								
文化・芸術に触れる機会の提供 (社会教育課)	14	80%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>3</td> </tr> </table>	事業の妥当性	4	効果性	4	効率性(コスト)	4	効率性(人員)	3	御前崎市振興公社や御前崎市文化協会と連携した文化事業や、教育委員会主催による埋蔵文化財及び指定文化財の出張授業、文化財講座など、文化や文化財にふれる機会を提供できた。 また、文化事業については丸尾記念館で伝統文化親子教室やお茶会を開催することで、文化施設の積極的な活用を図り、文化・芸術にふれる機会を提供できた。	①継続 市民の芸術文化意識の向上に資するため関係団体と連携し、市民ニーズにあった事業を推進していく。また、文化施設については、公共施設マネジメントに基づき、施設の適正管理に努め、積極的な活用を図っていく。
事業の妥当性	4												
効果性	4												
効率性(コスト)	4												
効率性(人員)	3												
【再掲】p.22 図書館での展示や講演会など文化事業の開催 (図書館)													
市文化祭の開催 (社会教育課)	14	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>4</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	5	効率性(コスト)	4	効率性(人員)	4	市文化協会と連携し、様々な団体や個人の文化活動を披露する文化祭を開催した。芸能発表及び作品展示、お茶会を無事に運営することができ、市内の文化振興に寄与することができた。	①継続 形式的な事業開催を見直すとともに、市民の方々が参加してもらえるような取組みを検討、実施に向けて関係団体との協働を図る。
事業の妥当性	5												
効果性	5												
効率性(コスト)	4												
効率性(人員)	4												
「文芸おまえざき第20号」の発刊 (社会教育課)	-	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>3</td> </tr> </table>	事業の妥当性	4	効果性	3	効率性(コスト)	3	効率性(人員)	3	市民・市内出身・在勤者67人から92作品の応募があり、発刊を継続することができた。昨年度と同様の効果があり、市民への文芸に対する関心を向けることができた。	①継続 引き続き市民の創作発表の場づくりを進める。 また、投稿者が固定化しつつあるため、新規投稿者の獲得に向けて周知または手立てを講じていく。
事業の妥当性	4												
効果性	3												
効率性(コスト)	3												
効率性(人員)	3												
御前崎市振興公社との連携による文化振興 (社会教育課)	14	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>3</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	4	効率性(コスト)	4	効率性(人員)	3	振興公社による実用書き方講座や絵画教室などの各種文化講座や映画上映会など様々な文化芸術に親しむ機会を提供できた。	①継続 引き続き、振興公社と連携して、市内の芸術文化意識の向上に資するため市民のニーズを踏まえた新たな講座等を自主企画するよう協力していく。
事業の妥当性	5												
効果性	4												
効率性(コスト)	4												
効率性(人員)	3												

事業	重点取組	執行度	点 検 ・ ( 評 価 )		今後の方向
市民会館・文化会館等の整備・改修 (社会教育課)	—	100%	事業の妥当性	5	①継続 施設については、今後継続して安全安心な施設として維持管理していくために、昨年度策定した文化施設の中長期保全計画を基に計画的な修繕工事を実施する。
			効果性	5	
			効率性(コスト)	4	
			効率性(人員)	3	
文化財等の整理・保存事業 (社会教育課)	—	80%	事業の妥当性	4	①継続 古文書や古写真等の史料は、会計年度任用職員が継続して史料整理を進める。また、保存と活用については、民具台帳のデジタル化を行い、今後の保存活用に備える。
			効果性	4	
			効率性(コスト)	3	
			効率性(人員)	3	
文化財による郷土の誇りを育てる事業の実施 (社会教育課)	2	100%	事業の妥当性	4	①継続 埋蔵文化財出張授業や体験学習による体験活動を通じて楽しみながら歴史に興味を持ってもらうように努める。また、文化財講座を市民対象から市外の人も参加できるようにして開催することにより、多くの人に御前崎市の文化財を理解してもらうようにしていく。
			効果性	4	
			効率性(コスト)	4	
			効率性(人員)	4	
指定文化財への標識等の設置 (社会教育課) ※前年度の掲載なし	—	40%	事業の妥当性	4	①継続 本年度設置した基準点を基に、来年度境界測量等を実施して、基準点を設置し、境界を明確にする。また、説明板4基を設置して、「白羽の風蝕礫産地」の所在や指定理由、指定地に係る地域等を周知する。
			効果性	4	
			効率性(コスト)	3	
			効率性(人員)	4	

事業	重点取組	執行度	点 検 ・ ( 評 価 )		今後の方向
「文化財年報」の作成 (社会教育課)	-	100%	事業の妥当性	4	①継続 文化財保護事業の実施状況、文化を後世に伝えるため引き続き文化財年報を作成する。
			効果性	4	
			効率性(コスト)	5	
			効率性(人員)	3	
ウミガメの保護活動の実施 (社会教育課)	-	100%	事業の妥当性	4	①継続 産卵地の環境保全のため、関係団体との情報共有、連携を図っていく。また、ウミガメ保護活動の大切さを多くの方に知っていただくため、ウミガメ写真展を御前崎地区・浜岡地区の両地区で開催する。
			効果性	4	
			効率性(コスト)	3	
			効率性(人員)	3	
丸尾記念館開館20周年記念事業の開催 (社会教育課) ※前年度の掲載なし	-	100%	事業の妥当性	5	②完了 丸尾記念館20周年記念のため、本年度のみの事業として完了した。
			効果性	4	
			効率性(コスト)	4	
			効率性(人員)	4	

## V 令和5年度教育委員会の活動

### (1) 御前崎市教育委員会委員の名簿

(令和6年3月現在)

役職名	氏名	任期
教育長	吉村 紳治郎	令和5年4月1日～令和6年3月31日
委員 (職務代理者)	竹田 和世	平成29年3月1日～令和9年6月23日 (教育長不在期間：令和5年1月1日～令和5年3月31日)
委員	島田 恵美	平成30年6月24日～令和7年6月23日
委員	松林 義樹	令和2年6月24日～令和6年6月23日
委員	野口 智美	令和3年6月5日～令和5年12月31日 (退任)
委員	馬 渕 香 澄	令和6年1月1日～令和8年6月23日 (新任)

(2) 協議事項

項目	件数	内容
(1) 学校教育又は社会教育に関する一般方針を定めること。	1	○令和6年度重点取組(案)について協議した。
(2) 教育委員会規則その他教育委員会の定める規程の制定又は改廃に関すること。	6	○御前崎市立図書館条例施行規則の一部を改正する規則 ○御前崎市立図書館雑誌スポンサー制度要綱の制定(後日、制定案を廃止) ○御前崎市立図書館雑誌スポンサー制度実施要領の制定(後日、制定案を廃止) ○御前崎市立小中学校管理規則の一部を改正する規則の制定 ○御前崎市立幼稚園の通園区域を定める規則の一部を改正する規則の制定 ○御前崎市立幼保連携型認定こども園の設置等に関する条例施行規則の一部を改正する規則の制定 について審議した。
(3) 県費負担教職員の懲戒及び校長の任免その他の進退について内申すること。	1	○令和6年度教職員人事異動について内申を行った。(うち、懲戒件数0)
(4) 教育予算その他議会の議決を経るべき議案について意見を申し出ること。	1	○令和6年度当初予算案(3月)について具申した。
(5) 社会教育委員、社会教育指導員及び図書館協議会委員を委嘱すること。	5	○社会教育委員を任命・委嘱した。 ○図書館協議会委員を任命・委嘱した ○学校給食共同調理場運営委員を任命・委嘱した
(6) 教科用図書の採択に関すること。	1	○令和6～9年度使用の小学校教科用図書の採択について審議した。
(7) 第26条の規定による点検及び評価に関すること。	1	○令和5年度御前崎市教育委員会の活動及び事務について点検・評価を行った。
(8) その他	7	○御前崎市教育委員会教育長職務代理者の指名 ○令和5年度準要保護児童生徒の認定 ○令和6年度準要保護児童生徒の認定 について審議した。  ○御前崎市教育委員会職員人事異動について について報告した。

## 総合評価

常葉大学 堀井啓幸

### 1 重点取組の執行度ほぼ 100%

2023 年度の重点取組の執行度は、ほぼ 100%の執行度となった。昨年 5 月に新型コロナウイルス感染症の 5 類感染症移行後、ほぼすべての項目で「執行度 100%」となったことは、対面活動の制約がなくなりつつあることとも関わるが、コロナ禍でも多様、多量な教育事務を着実に管理・執行されてきた教育委員会活動の成果として高く評価したい。

それぞれの取組における事業内容が若干異なるので単純な比較は難しいものの、各取組の執行度の平均値は以下の表のように変化している。

表 重点取組の執行度 (%)

重点取組 (継続事業)	2021 年度	2022 年度	2023 年度
1 生活習慣 (学習習慣) の定着	87.5	87.5	97.5
2 市の特色を生かした教育や体験による愛郷心の育成	96.7	100	100
3 読書・読み聞かせの推進	95.0	100	100
4 乳幼児の保育・教育の充実と円滑な園小接続	100	100	100
5 家庭教育支援の充実	90	90	100
*基礎学力の向上と得意分野の伸長 (2021 年度までの取組を 2022 年度から以下の 3 つの取組に分けている)	100	-	-
6 互いの人権を尊重し、思いやりを大切にする教育への取組	75	90	100
7 探究的な学び・協働的な学びの深化 (2022 年度新設)	-	100	100
8 ICT 等の活用による新しい学びの展開 (2021 年度は「一人一台端末の効果的な活用」)	96.7	100	100
9 健康教育を通じた体力の向上と健やかな体づくり (2021 年度は「学校教育・社会教育を通じた体力の向上と健やかな体づくり」)	100	100	100
10 特別な支援を必要とする児童生徒への教育の充実 (2021 年度は「不登校・特別な支援を必要とする児童生徒への対応」)	100	100	100
11 部活動の地域移行の検討	-	-	100
12 (園・) 学校の再編についての検討	100	100	100
13 ライフステージごとの学びの提供	88.0	100	100
14 生きがいや潤いをもたらす文化・スポーツの振興	81.3	89.4	93
15 新型コロナウイルス感染拡大への対応	100	100	100
16 教職員の働き方改革の推進	100	100	96.7

今日、教育行政において、証拠に基づく政策立案 (Evidence-Based Policy-Making) が求められており、何をもって執行度〇%といえるのか、目標との関係でそのエビデンスが示されていない項目があることは気になるが、御前崎市は「スクラム御前崎」というネットワーク型行政の機軸があり、御前崎市の教育行政や学校教育が日常的に「スクラム」を組んで対応することで共通理解がしやすい政策立案の土壌を作っていることがこうした成果を上げていると推察される。教育事業を執行する当事者としての教育行政職員が、非常事態でも顔を合わせて臨機応変に対応を話し合えるという、おそらく御前崎市の教育風土に由来するであろう「スクラム」の姿勢が「執行度 100%」の活動を作り上げている。

## 2 御前崎市の教育行政への提言-執行度 100%の重点取組のさらなるレベルアップ-

「執行度 100%」の御前崎市の教育行政のこれからについて、最近の国の教育政策が重視する、「子どもの参加」、「地域のつながり」の2つの視点から提言したい。これら2つの視点は、御前崎市でこれまでも重視されてきた視点ではあるが、今日、もう一段レベルアップした施策が求められている。

### ① 「子どもの参加」と「スクラム御前崎」

こども家庭庁の創設とともに、2023年4月に施行された「こども基本法」では、国及び地方公共団体がこども施策を策定・実施・評価する際には「こどもの意見」を反映させるための措置を講じなければならない旨が規定されている。

2023年度は、「スクラム御前崎」の集いで子どもたちを交えたワークショップが初めて開催されているが、子どもや保護者、地域住民がそこで集うという執行を超えて、子どもや保護者、地域住民から出てきた意見を次年度にどのように生かしていったらいいのかをきちんと評価し、施策に反映させることがこれまで以上に求められる。

2022年12月に改訂された文部科学省「生徒指導提要」では、「生徒指導に関する法制度等の運用体制」において、「児童生徒の参画」について記述されており、校則の改定や部活動の地域移行などで、児童生徒の参画などを前提にした学社協働の施策がどこまで実践できるかも問われている。これまで以上に「子どもの参加」を積極的に図ることで、学校の教育実践のみならず地域の生涯学習がさらに活性化されると同時に、御前崎市の「スクラム」の良さを生かした地域全体の発展や優れた人材の育成につながることを期待したい。

### ② 「地域のつながり」と地域教育経営

2023年3月の中央教育審議会答申「次期教育振興基本計画について」では、2023年度から始まる次期教育振興基本計画の統轄的な基本方針・コンセプトとして、「持続可能な社会の創り手の育成」及び「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」が掲げられ、「日本社会に根差したウェルビーイング」の重要な要素として「学校や地域でのつながり」の重要性が改めて指摘されている。<sup>\*1</sup>

「スクラム御前崎」を前面に出している御前崎市では地域と密接に結びついた教育行政施策に大きな特徴を持っており、静岡県内でもその取り組みが注目されてきたが、全国各地でこうした取り組みが当たり前になる中で、今、目の前にある地域、そこで生きる子どもや保護者、地域住民をどのように把握して、対応し、子どもも含めた地域住民の幸せづくりを支援していくか。まさに「スクラム御前崎」の真価が問われている。

御前崎市の「郷土を愛し、未来を創る人づくり」という目標の下で、「学校や家庭、地域のつながり」をさらに太くするためには、行政主導ではない学習者自身の主体性や自己主体性に立脚した地域教育経営を前提とした自律的な学校経営の明確なビジョンや体制づくりが不可欠になる。そのためには、個々の学校経営をこれまで以上に積極的に支援する教育行政の在り方が課題といえる。それぞれの学校園の特性を踏まえるという現在の執行状況を超えて、御前崎市全体を俯瞰する地域教育経営の在り方が問われている。

御前崎市教育委員会では、2022年度から自己点検・評価に関わる課長や補佐の連絡会が開催されることになった。評価自己点検・評価が年度末に部署ごとに行われてきたことを超えて、教育行政が縦割りではなく、当事者意識をもって行われることで、就学前の保育から小中学校、高等学校に至るまでの縦の連携（接続）、家庭、学校、社会を結ぶ横の連携が当たり前になってきた「スクラム御前崎」をさらに太く厚く支援してほしいと思う。

\*<sup>1</sup> この答申では、「ウェルビーイングとは身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいい、初期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義など将来にわたる持続的な幸福を含むものである。また、個人のみならず、個人を取り巻く場や地域、社会が持続的に良い状態であることを含む包括的な概念である。」と定義している。